

未来型解決能力を持つ地域の担い手を育成する | KUNOモデルの開発

〔研究開発の背景〕

生野鉱山閉山から47年。薄れゆく鉱山町としての意識・気概など「IKUNOプライド」継承に期待する声が大きく、地域の協力体制は手厚い。地域課題が山積する一方で「日本遺産」認定など、豊富な地域資源が日の目を浴びる追い風が吹くなか早急な「地域×高校」の学びのシステム構築が求められている。また、これからの未来に必要な「お金の知識」・「テクノロジー（未来の暮らし・仕事）」の知識習得に必要なカリキュラム作成を目指している。

生野高校

+

コンソーシアムIKUNO協議会

福知山公立大

朝来市

兵庫県教委

(株)ZMP

神戸山手大

いくの自治協議会

全但バス株式会社

NPO法人いくのライヴミュージアム

但陽信用金庫

奥銀谷自治協議会

(株)シルバー生野

社会福祉法人いくの喜楽苑

朝来市商工会

生野町観光協会

NPO法人日本ハンザキ研究所

生野町温泉開発株式会社

〔令和2年度の目標〕

自走できる組織・体制づくりの構築

- 全教員による職員研修会（4月－スタート時 1月－1年間の総括）
全職員での取組、誰もが指導できる体制づくり
- ゆめいく授業担当者会の設置（週1回）
方向性の確認・共有
- ディレクター制の導入（日本ハンザキ研究所）

カリキュラム開発の充実

- 指定終了後も自走できるカリキュラムの構築
地域学・お金の授業・テクノロジー

プレゼン能力の育成

- 大学教員によるプレゼン講義
- 1年生は全員が個人によるプレゼン（IKUNO検定）
- コンソーシアムメンバーによる事後の指導・助言

〔課題〕

- ① アンケートの目標値と、探究活動に充実感を持つ生徒の割合実数との乖離（コロナ禍の影響による）生徒の高校生活や生活全般の満足度低下にも関連があると考えられる。
- ② コロナ禍でのフィールドワーク等協働活動の実施方法の充実（オンライン/電話/FAX等）主体性をもち、楽しんで取り組む働きかけが必要。
- ③ 発表会で、他校との交流を増やし、探究活動で得た学びの共有及び情報発信

〔成果〕

① カリキュラム開発

カリキュラム開発等専門家の支援のもと、年間計画の構築と実践

② コンソーシアムと学校との関係性の向上

より緊密な関係となり、連携内容も改善。この関係性を十分に活かし、フィールドワークの更なる充実を図る。

③ オンラインでの活動の充実

- オンラインによる成果発表会、コンソーシアム協議会、運営指導委員会等の実施
- 高校初、クラス単位による複数日に渡るオンライン国際交流授業 **《新聞掲載》**
→ 全4日間 / インド・マレーシア



④ ゆめいくプロジェクトへの職員の共通理解 / 段階的な学びへ

夢を育む生野高校 1年「ゆめキソ」 / 2年「ゆめプロ」 / 3年「ゆめレポ」

⑤ まちづくり部の推進